

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)の取組事例

## 「地域学校協働活動(放課後子ども教室)」(宮城県石巻市)

### 取組の概要や経緯

市内小学校区において、公共施設等を活用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため平成25年度に和渚小学校区をモデル地区として開始した。



和小さ子クラブ:  
脱穀体験



上釜子ども教室:  
植栽活動



放課後子ども教室Bremen:  
大きな布に絵を描こう

### 内容

#### ◎和小さ子クラブ(平成25年度より実施)

実施3回。1年生から3年生までを対象として年度初めに参加者を募集し、木曜日の放課後に地域ボランティア等を講師として体験活動を行った。コロナ対策を踏まえて回数を大幅に減らしての実施となった。

#### ◎上釜子ども教室(平成28年度より実施)

実施3回。上釜町内会、NPO法人にじいろクレヨンのボランティアが主体となり体験学習を行った。コロナ対策を踏まえ、屋内での活動は中止とし、屋外での活動のみ行った。

#### ◎放課後子ども教室Bremen(平成29年度より実施)

実施30回。NPO法人放課後こどもクラブBremenが主体となって活動している。地域の方を講師として体験活動や創作活動などを行った。

### ポイント

- ①和小さ子クラブは年度始めに参加児童を募集し実施する。縦割り班を編成し、班ごとの活動を中心に活動する。
- ②上釜、Bremenの活動は実施ごとに参加者を募って活動する。
- ③コーディネーターが中心となり、ボランティアの役割を明確にして活動する。

### 成果

子どもたちは、放課後子ども教室の活動をとっても楽しみにしており、積極的に参加し、地域の方々に見守られながら元気よく遊びや体験活動などに取り組んでいた。異年齢交流の大切な場にもなっており、人とのかかわり方や思いやりの心等を学ぶ場にもなっている。コロナ禍の中、地域の方々は予防対策をとりながら、できることから取り組もうと、子どもたちのために遊びや体験活動等を計画し、安心・安全に活動できる居場所作りをしていた。

◇石巻市放課後子ども教室実施回数・参加者数(2月末現在)

※( )は令和2年度

事業名	実施回数	児童		ボランティア	
		登録者数	平均参加者数	登録者数	平均参加者数
和小さ子クラブ	3回	25人(33人)	24.6人(28.1人)	23人(26人)	13.0人(11.7人)
上釜子ども教室	3回	自由参加	12.3人(27.0人)	16人(16人)	7.3人(9.5人)
放課後子ども教室Bremen	30回	回ごとに募集	13.8人(12.0人)	14人(8人)	4.8人(3.8人)

### 今後の方向性

- ・子どもたちに多様なプログラムを提供できるように、地域の人材の活用の他、関係機関との連携を図った取組を模索する。
- ・各地区で持続した取組ができるように、ボランティアの育成・確保に努める。
- ・放課後子ども教室の取組を周知し、参加児童の増加を目指すとともに、他地域での教室開催を目指す。

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 地域学校協働活動の取組事例

### 「塩竈市放課後子供教室」(宮城県塩竈市)

#### 取組の概要や経緯

令和3年度からのコミュニティ・スクールが導入に合わせて、市内小学校2校で**放課後の子供たちの安心・安全な居場所づくり**を目的に、放課後子供教室を開設した。

放課後子供教室支援員の他に、**体験活動の講師、学習支援、見守りなどにおいて、地域の方々の参画を得ながら活動の充実を図っていく。**

#### 内容

子供たちは、地域の方々や保護者などの学習支援や見守りの支援により、宿題や自主学習に取り組む。

また、毎月一度、地域で活躍する方や団体等の協力により、運動、創作、遊びなどの体験活動を実施する。

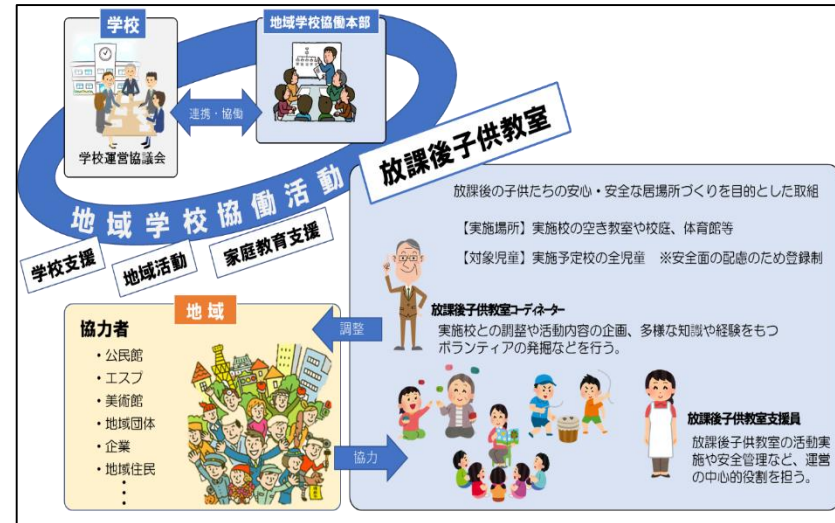
地域住民との交流活動等の機会により、地域で子供たちを育む環境を充実させ、子供たちの学びを支えていく。

#### ポイント

- 宿題をするだけでなく、支援員による読み聞かせやクイズ、折り紙などの**お楽しみタイム**を設けている。
- 活動内容は、子供自身が選択**する。
- 放課後子供教室コーディネーターや支援員が**体験活動の企画**をしている。

#### 成果

- ・みんなで学ぶ環境と雰囲気があり、同級生同士や異年齢による教え合いがある。
- ・お楽しみタイムで、読み聞かせやクイズの出題をする児童がいて、子供の主体性が育まれている。
- ・コーディネーターや支援員が地域住民の参画を促すことで、協力が増えるだけでなく、地域住民の生きがいの場となっている。



#### 今後の方向性

- ・各校の学校運営協議会や地域学校協働本部との連携
- ・地域コーディネーターによる幅広い地域住民、団体などの参画の調整
- ・放課後子供教室についての広報

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 地域学校協働活動の取組事例

### 「地域の力でつくる子ども達の放課後」(宮城県白石市)

#### 取組の概要や経緯

平成17年度に斎川小学校区で「地域子ども教室推進事業」として行ったのを始まりに、児童クラブへの移行、小学校の統廃合を経て、令和3年度は市内3小学校区で実施している。地域住民がコーディネーター、スタッフとして活躍している。



#### 内容

市内子ども教室を総括する「コーディネーター」を配置し、活動を充実させている。平成30年度からは、**児童クラブ体型、連携型**を実施している。連携型の放課後子ども教室は閉校した学校の行事として行われていた伝統文化体験を、統合した小学校の子ども教室で体験活動として行っている。一体型の教室は、学習支援、運動遊び「ムーブメント」、絵本の読み聞かせ、造形活動、など様々なプログラムを実施している。

コロナ禍により、子どもたちの体験の場が減っている状況のなか、感染対策を徹底し、各教室が地域の特色や実情に合わせて、特色あるプログラムを実施することで、子供達の放課後の居場所づくりを行っている。



#### ポイント

- ①各教室ごとに**地域の伝統文化や人材を活かし**、特色あるプログラムを実施した。
- ②スタッフ会議を実施し、スタッフ同士の**感染対策と危機・安全管理対策**の共有を図った。
- ③学校との積極的なコミュニケーションを図り、コロナ禍における急な中止の連絡等が発生した際も柔軟な対応を取っていただいた。



#### 成果

- ・特色あるプログラムを体験することで、家庭内での子どもと保護者のコミュニケーションにつながった。
- ・スタッフ合同会議を開催し、コロナ対策・安全管理など課題を話し合い、対応について考え合えたことにより、コロナ禍の中、子どもたちだけでなく、スタッフにとっても安心して活動できる場がつけられた。
- ・地域の活性化や地域住民の生きがいづくりに繋げることができた。



#### 今後の方向性

- ・講師の派遣等を積極的に活用して、子どもたちにとって貴重な体験となる活動を展開していく。
- ・継続的に活動を行うために、スタッフや学校との連携・協力体制を話し合いを通してより強化していく。
- ・感染症対策の徹底を呼び掛ける。

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 放課後子供教室の取組事例

### 「地域ぐるみによる教育支援」(宮城県登米市)

#### 取組の概要や経緯

放課後に、子どもが安心・安全に活動できる場を確保し、地域ボランティアの参画を得ながら、学習・文化活動、地域住民との交流体験を行い、次世代を担う子どもの健全育成を支援する。

#### 内容

- 学習活動 宿題等自主学習の支援、図書室を利用した読書活動等。
- 体験活動 泥団子作り、凧作り、自然探索、リトミック体験等。
- 遊びの活動 校庭での外遊び、折り紙、昔遊び等。
- その他の活動 地域ボランティアとの交流、クリスマス会などの季節行事等。

#### ポイント

1. 学校の授業にはない、日常と異なる体験を通じ、子どもの豊かな心を育む。
2. 地域住民ボランティアとの交流により、地域との繋がりを実感できる。
3. 異学年の児童が交流をすることで、思いやりの気持ち、心の成長を促す。

#### 成果

- ・児童の安全な放課後の居場所づくりに寄与するとともに、保護者以外の大人である地域住民や異学年の児童との交流を通じて、児童の健全育成を推進した。
- ・児童クラブ機能を補完するため毎日開催している6教室について、児童クラブとの一体型・連携型での事業実施に向けて、小学校内への児童クラブの新設や、保護者説明会を実施し、両事業の棲み分けを図った。



#### 今後の方向性

- ・現在11教室開設しているが、毎日最大18時30分まで開催している6教室を段階的に月1回等の定期開催型へ移行し、持続可能な事業へ転換する。
- ・小学校内に新設される4児童クラブと子ども教室を一体的な運営を実施する。

# 「宮城県学校・家庭・地域連携協力推進事業（学校を核とした地域力強化プラン）」の取組事例

## （２）放課後子ども教室「宮地区放課後子ども教室」（宮城県 蔵王町）

### 取組の概要や経緯

全ての小学生を対象として、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。

### 内容

町内５ヶ所の児童館において、２回ずつ多様なかつ魅力的な学習・体験プログラムの提供を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、今年度は宮地区で３回の開催とした。

### ポイント

廃品（ペットボトルのキャップ）を利用する事業としたことで、遊ぶことに関し知恵を絞れば、楽しい時間を過ごせるとの意識を持ってもらう。

地域のボランティアさんに協力を要請し、指導に関し自分の特技を生かしながら、上手に児童に接することで、世代間交流の促進を図る。

### 成果

コーディネーターが創作したゲームであったが、児童が真剣にゲームに取り組んだ結果に対し、得点を与えた。ゲームの得点を合計することで、上位の児童に対し、キャップを加工して造ったメダルを授与した。ゲームであっても真剣な取り組みをすることで、点数が得られる楽しさ及び参加姿勢に対し、大きな学びがあったように思料できる。

３回の取り組みであったが、回を重ねるごとに参加児童が増えたのは、ゲームの楽しさについて、口コミで広がったことによるので、学習効果を高める内容だったと推察できる。



### 今後の方向性

コロナ禍によるイレギュラーな形式での実施となったが、来年度以降は放課後児童クラブとの連携を密にしながら、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの、安全で安心な学習効果を高める【放課後子ども教室】が実施できるよう検討していきたい。

# 令和3年度「宮城県学校・家庭・地域連携協力推進事業」

## 放課後子供教室の取組事例

### 「大河原町放課後子供教室推進事業」

#### 取組の概要や経緯

○子供たちの様々な体験活動を通し、地域住民との交流や豊かな心を育む環境づくり、家庭学習の定着化を目的とした放課後子供教室推進事業を「宮城県学校・家庭・地域連携協力推進事業」の委託を受け実施。本町では平成17年から実施している事業である。



#### 内容

町内3小学校区で実施（新型コロナウイルスの影響等により、一部の事業を中止とした。）

- 大河原小学校放課後子供教室（小学1～3年生）17回開催  
学習支援、講師による特別教室
- 大河原南小学校放課後子供教室（小学1～6年生）41回開催  
ACP活動、伝統文化継承活動、野外体験、陶芸教室、茶道体験、百人一首体験
- 金ヶ瀬小学校放課後子ども教室（小学1～3年生）21回開催  
科学教室、ハンドベル・クラップハンド演奏、百人一首、ほか



#### ポイント

- ・町内すべての小学校区で実施されており、スタッフも様々な特技を持った人材が揃っている。
- ・各教室のスタッフが集まり、情報交換や事業の反省を行うスタッフ会議等を開催し、プログラムの充実を図っている。

#### 成果

- 大河原小学校放課後子供教室  
体験型プログラムの数を増やし、学習支援のみにとどまらない活動を実施。参加者・保護者の満足度向上に繋がっている。
- 大河原南小学校放課後子供教室  
児童クラブとの連携型として実施。NPO法人キハト会に業務委託し、幅広い体験活動を行っている。
- 金ヶ瀬放課後子供教室  
児童クラブとの連携型として実施。地域の特色を生かしたプログラムを特徴としている。

#### 今後の方向性

- 毎年参加している児童にも楽しんでもらえるよう、体験型プログラムの充実化を図る。
- スタッフの多忙化により、継続して事業に関わることができないとの声もある。コーディネーターの後任育成をはじめ、運営体制を確立させておくことが必要である。
- すべての小学校区で行っている特色を生かし、各教室のプログラムを全体で共有できるような仕組み作りを目指す。

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」(学校を核とした地域力強化プラン) (学び支援コーディネーター等配置事業)の取組事例

## 「亘理町放課後子供教室『放課後楽校』」(宮城県亘理町)

### 取組の概要や経緯

東日本大震災後、町内の各小学校や近接する社会教育施設を主な会場として、在校するすべての児童を対象にした取組を再開・新設している。  
地域住民や各地区交流センター、各まちづくり協議会員等、様々な立場の方が参画し、活動ボランティアとして企画・実践を行っている。



### 内容

- 各校に1~3名ずつ、コーディネーターを配置し、地域住民等と共に、年間15回の活動内容を検討し、放課後の時間に参加申込みをした児童(各校30名程度)と様々な体験活動を行う。(レクリエーション、制作活動、昔遊び、ニュースポーツ、陶芸、料理、書道、読み聞かせ等)
- 各教育活動推進員が作成した計画書を基に児童と楽しく関わりながら実践する。
- 年3~4回、「放課後子供教室連絡協議会」を実施し、活動の反省や実施内容の検討、担当するスタッフの決定等を行うと共に、様々な情報交換を行いながらより良い活動を目指して意見交換を実施する。



### ポイント

- ①新型コロナの感染防止策を毎回徹底して、活動を行う。
- ②参加児童に多様な体験ができるように、毎回工夫を凝らした多様なプログラムを計画
- ③様々な趣味や特技を有している地域住民の自己実現の場の提供
- ④地域住民が主体的に協働することを可能とするコーディネーターの存在
- ⑤よりよい事業運営の実現を可能とするコーディネーター会議の実施
- ⑥行政や地区交流センター、まちづくり協議会と連携した多様な学びの機会を提供する。

### 成果

- ・活動ボランティアとして参加している多くの住民が、事業の趣旨を深く理解し、地域コミュニティの再生や児童育成への思いに対して高まりや深まりが感じられる。(R3調査:スタッフとして「活動に参加して良かった」との回答が100%)
- ・学校や家庭では味わうことが難しい多くの体験活動に取り組めるため、参加児童は、大きな満足感が得られるだけでなく、他学年児童やスタッフ等との人間関係の広がりも見られた。(R3調査:「活動に参加して良かった」と回答した児童が98%、保護者100%)

### 今後の方向性

- ・現在、町内に6校ある小学校のうち5校で開校。残り1校は、小規模特認校の特性を生かし、本事業で連携を強めた地域人材を紹介し活動の幅を広げたい。
- ・行政や各地区交流センターや各まちづくり協議会との連携を一層充実させ、「地域学校協働本部」にて育みたい子供像の共有化を行う。
- ・児童館や放課後児童クラブとの連携も一層充実させ、各校の実情に応じた合同活動の実施を重ね、一体的運用の取組を充実させる。

# 「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 の取組事例

## 世代・学年を超えた交流のある「まつしま放課後子ども教室」( 宮城県 松島町 )

### 取組の概要や経緯

- ・放課後等の児童の安全・安心な活動拠点を確保し、地域ボランティアの参画を得ながら、児童の健全育成を推進するとともに地域の活性化を図ることを目的に実施。
- ・平成30年度に新規事業として開設された。



宿題



外遊び

### 内容

- ・町内三つの小学校で、各校月曜日に開催(各校年間6回)。
- ・活動場所は、校庭・体育館・特別教室。
- ・自由遊びを主な活動とし、児童の主体的な活動を重視して実施。  
町のALT(外国語指導助手)を活用し、自由遊びの中で自然に英会話に触れる機会を設定した。
- ・午後4時までは、自由下校。午後4時30分まで参加する児童は、保護者の迎えがある場合のみ利用できる。



ALTとの交流



体育館遊び

### ポイント

- ・児童は、校庭や体育館、特別教室の好きな場所で好きな遊びができる。スタッフは児童と一緒に遊びながら活動を見守っている。
- ・町のALT(外国語指導助手)を活用し、英会話に親しむ機会を設けた。

### 成果

- ・スタッフとして小学校保護者2名が新たに加入した。
- ・開設4年目となり、宿題をしてから遊ぶなど、児童の中での習慣づけができてきている。

### 今後の方向性

- ・スタッフの人員不足が課題である。今後は、更なる保護者の参画をはじめ地域住民がボランティアとしてかかわる機会を設け、より多くの地域住民と子供たちの交流を実現していきたい。